

臨床研究活動を実践するためのノウハウを向上させ、医療薬学の進歩発展を図る

第4回 医療薬学教育セミナー 『臨床研究成果を論文にするために』

— 薬物相互作用の事例を科学的に洞察して質の高い研究につなげよう —

臨床研究活動を実践するためのノウハウがなく、また研究指導を受けられる環境にない病院・保険薬局に所属する薬剤師は少なくありません。日本医療薬学会医療薬学教育委員会では、薬系大学や臨床研究の実践力を有する病院などと連携しながら臨床研究に取組み、臨床上あるいは臨床研究上の問題を解決し、その成果を学会発表から論文文化に繋げるための教育的なセミナーを企画いたしました。臨床系教員にも役立つ内容となっています。

第4回目は、本学会の医療薬学学術第四小委員会との共同企画により「薬物相互作用」をサブテーマとして取り上げ、臨床現場における身近なテーマを題材に研究計画の立案、実施、学会発表から論文執筆までの留意点など、実践例をご紹介しますながらレクチャーいたします。多くの会員のご参加をお待ちしています！

記

開催日	2020年4月19日(日)
場所	一橋大学一橋講堂 (東京都千代田区一ツ橋)
主催	一般社団法人日本医療薬学会 医療薬学教育委員会
対象	薬剤師、大学教員、薬学生、その他
参加費	本学会会員 正会員 4,000円 学生会員 <u>無料</u> 一般 社会人 6,000円 学生 2,000円
参加登録	事前参加登録が必要です。2月上旬より受付を開始します。

<プログラム>

開会挨拶 (10:00~)

基調講演 1 (10:05~10:55)

大谷 壽一 (慶應義塾大学 薬学部臨床薬学講座 教授)
「(英文) 学術論文の投稿とリバイスのポイント」

基調講演 2 (10:55~11:45)

濃沼 政美 (帝京平成大学薬学部薬学科・大学院薬学研究科 医薬品安全性評価学 教授)
「薬剤師は何のために臨床研究をするのか」

昼食 (75分)

シンポジウム (13:00~16:00)

樋坂 章博 (千葉大学大学院薬学研究院 臨床薬理学研究室 教授)
「(検討中)」

大野 能之 (東京大学医学部附属病院 薬剤部 副薬剤部長)
「PISCSに基づくDDIマネジメント」

休憩 (10分)

木村 文司 (神戸大学医学部附属病院 薬剤部 主任)
「臨床現場における薬物相互作用エビデンスの活用と課題」

増田 純一 (独立行政法人国立国際医療研究センター病院 薬剤部 医薬品情報管理室長)
「DDI データベースを活用したマネジメント (仮)」

総合討論

閉会挨拶 (16:00~)

(本プログラムは、変更される場合があります。)

<認定単位>

日本医療薬学会 各専門薬剤師資格の対象研修 (5単位)

日本薬剤師研修センター認定研修 (申請予定)

日本病院薬剤師会病院薬学認定薬剤師研修制度研修 (申請予定)